



国指定重要無形民俗文化財

岩戸寺修正鬼会



修正鬼会

修正鬼会は、国東半島の六郷山寺院を中心に行われてきた、春を迎える伝統行事です。地域では「鬼会」とか「鬼夜」と呼んだりもします。

平安時代に、都の各仏教寺院で「修正会」という正月の法会が行われるようになりました。この修正会各地の寺院にも広がっていき、鎌倉時代にはこの国東半島地域にも入っていたようです。そして六郷山寺院では、この地域で行われていた「鬼会」という行法と結びつき、独自の「修正鬼会」が生まれたと考えられています。現在寺々に残されている鬼会面などから、江戸時代の初め頃から盛んに行われていたようです。

六郷山の寺院は決して大きなお寺ではありませんでしたが、領主の厚い保護を受け、領地や多くの僧を抱えていたことから、各寺院で修正鬼会を行うことができました。しかし明治時代になると保護する領主もなくなり、寺僧も減少したことで、1カ寺単独で鬼会を行うことが財政的にも人員的にも困難になりました。そこで六郷山の寺々は東、中・西の3組に別れ、各組のなかで相互に加勢しあう方法を取り、明治の頃にはまだ約20の寺院で修正鬼会を行っていました。しかしその後も衰退が進み、現在では東組が国東市の成仏寺と岩戸寺で交互に行い、西組が豊後高田市の天念寺で行うだけとなっています。

修正鬼会は、寺の僧侶だけでなく、区長をはじめ地域の人びとがさまざまな役割を担います。修正鬼会が寺院だけの法会にとどまらず地域の行事にもなっていたことは、六郷山寺院と地域の結びつきの強さを示すものと考えられています。

まさに僧侶が一体となって行われる国東半島の修正鬼会は、仏教儀式でありながら農耕儀式や庶民信仰をも含んだ儀式として、昭和52年5月17日、国の重要無形民俗文化財に指定されました。

岩戸寺修正鬼会

岩戸寺修正鬼会の開催日は旧正月の7日です。また成仏寺と交互に行うようになってからは、西暦の奇数年に開催されています。しかし近年では過疎化により地区外からの加勢も頼むようになったため、参加しやすいよう旧暦1月7日に直近の土曜日などに日程をずらすこともあります。

また成仏寺の荒鬼が3人であるのに対し、岩戸寺で登場する荒鬼は2人です。

鬼会の役付と準備

かつては旧12月1日（カラスツイタチ）に、岩戸寺に各役付の人が集まり身を清め、鬼会の準備を始めました。特に鬼会前の1週間は寺に籠って身を慎んだといえます。現在は岩戸寺区の役員を中心に話し合い、各役付や準備の日程などが決められています。鬼会に奉仕する役付には、主に次のものがあります。

院主（寺の住職）の指示にしたがって鬼会の準備や進行を司る役目です。黒の紋付・袴を着て、諸役の指揮・監督をします。また、院主や役僧の先導もつとめます。

給仕人（きゅうじにん）

「盃の儀」のときに、僧侶やタイレシに盃の給仕をする役目です。袴・袴を着用します。2名選ばれます。

囃子方（はやしかた）

笛・鉦・太鼓の3名で「勤行」や「盃の儀」のときなどにお囃子をします。寺院の法会でこのようなお囃子がつくことは珍しく、神仏習合の六郷山寺院の特色といわれています。

タイレシ

「タイアゲ」の時に大松明（オオダイ）をかっぎます。また荒鬼の登場に際しては「カイシヤク」としてその介添役になり、鬼とともに加持を行います。

かつては岩戸寺区内の7つの組から一挺ずつ大松明を献納しており、組内で代々大松明を献納するタイイレ（松明入れ）という家も世襲されていました。



鬼とタイレシ



大松明（オオダイ）

立役	読経	
	夜の勤行	昼の勤行
23 鬼後咒（きごじゆ）	15 錫杖（しやくじょう）	1 伽陀（かだ）
22 荒鬼（あらおに）	14 目録（もくろく）	2 懺法導師（せんぼうどうし）
21 災払鬼（さいばらいおに）	13 縁起（えんぎ）	3 序音（じよおん）
20 鈴鬼（すずおに）	12 梵音（ぼんのん）	4 回向（えこう）
19 四方固（しほうがため）	11 散華（さんげ）	5 仏名（ぶつみょう）
18 香水（こうずい）	10 唄匿（ばいのく）	6 初夜（しよや）
17 開白（かいびやく）	9 三十二相（さんじゅうにそう）	7 法咒師（ほふし）
16 米華（まいけ）	8 神分（じんぶん）	8 神分（じんぶん）

※9～15は8（神分）と並行して行う

鬼会の行法

修正鬼会は差定と呼ばれる、行法と役僧を書いたプログラムに沿って進められます。差定は座つて行う読経と、立つて行う立役とに分けられます。長時間に及ぶため、読経は昼の勤行と夜の勤行に分かれ、その間にお斎（食事）・垢離取り（清め）・盃の儀（結縁）・タイアゲ（大松明の火入れ）が行われます。

六郷山の各寺院の僧侶が一堂に会し読経するさまは荘厳です。そして立役になると、僧侶が2人1組になって、香水棒などを手に、



米華



昼の勤行

福を招く国東の「鬼」

修正鬼会には「鈴鬼」と「荒鬼」という2種類の鬼が登場します。

鈴鬼は鮮やかな装束を着た男女2人の鬼で、その面は仏の慈悲を表しているといわれます。荒鬼は岩戸寺では「災払鬼」・「鎮鬼」の2人※1、成仏寺では「災払鬼」・「荒鬼」・「鎮鬼」の3人で構成されます。そして、災払鬼は仁聞菩薩（六郷山の開基と伝わる伝説の僧侶）や愛染明王または不動明王の化身、荒鬼は法蓮上人（宇佐弥勒寺初代別当）または不動明王の化身、鎮鬼は千手観音や薬師如来の化身と、寺によって解釈は異なりますが、いずれも仏や伝説的な高僧の化身とされています。

修正鬼会の行法では、いずれの鬼も僧侶が扮します。差定（プログラム）の順では、僧が道場を結界した後、鈴鬼が登場し、「鈴鬼九手秘伝」と呼ばれる一連の法舞を行い、荒鬼を招き出します。招き出された荒鬼は



鈴鬼



荒鬼



もてなしを受ける荒鬼

松明をかざして「鬼走り」と呼ばれる秘法を行い、参拝者を加持祈禱します。さらに荒鬼たちは寺を出て地区の家々をまわり、仏壇に参ります。鬼が訪れた家では酒食をふるまい、鬼を歓待します。（※2）

※1・岩戸寺では、その昔3人の鬼のうち荒鬼役の僧侶が暴れだして結界の石を越えて飛び出したあげくに死亡し、面が国見の権現崎（二説では姫島の観音崎）まで飛んで食いついたため、それ以来荒鬼を欠いてしまったという伝承があります。

※2・地区をまわるのは東組の風習であり、西組の天念寺では鬼は講堂を出てはいけないうことになっています。

岩戸寺修正鬼会の日程 ※時間は目安です。

1	午後3時～ 昼の勤行（講堂）	講堂で僧侶が読経を行います。	
2	午後5時～ お斎（本堂）	僧侶や鬼会の役付きのひとびとが食事をします。	
3	午後6時30分～ 垢離取り （参道下のコーリトリ淵）	年の勘定とタイレンが淵の水に体を浸してお清めをします。	盃の儀 
4	午後7時～ 盃の儀（本堂）	院主とタイレンが盃を交わして縁を結び、鬼会が無事執行されることを祈願します。	
5	午後7時30分～ タイアゲ	参道で大松明（オオダイ）に火がつけられ、タイレンがかつぎあげて参道を上り、六所権現と薬師堂に献灯します。	タイアゲ 
6	午後8時30分～ 夜の勤行（講堂）	昼の勤行につづき、読経が行われます。	
7	午後10時30分～ 立役（講堂）	僧侶が香水棒などを持ち経文に合わせて舞う、一連の行法が行われます。 ・米華 2名の僧侶が香水棒・米・ワラ・餅をのせたお盆を持ち、足踏みするように舞います。五穀成就を祈願する儀式です。 ・開白 2名の僧侶が右手に香水棒を持ち、足踏みとともに上に突き上げたり床を突いたりしながら舞います。立役に用いる松明の火の安全を祈願する儀式です。 ・香水 2名の僧侶が向かい合って香水棒を打ち合わせながらおおきな動きで舞います。 ・四方固 院主と長老の僧が、右手に太刀、左手に金剛鈴を持ち、講堂の東西南北を結界して、魔物の侵入を防ぎます。 ・鈴鬼 2名の僧侶が男女の鈴鬼に扮して、右手に鈴、左手に御幣を持って舞います。最後に荒鬼を招きだします。	香水 
8	午後11時30分～ 鬼走り（講堂～地区内）	2名の僧侶が荒鬼（災払鬼と鎮鬼）に扮して登場します。修正鬼会のクライマックスです。	
	災払鬼・鎮鬼	鬼とタイレンが「オニハヨー ライショハヨー」と囃しながら前後左右に飛び、松明を振ります。つづいて手をつないで輪をつくり、参拝者が中に入って加持を受けます。松明で参拝者の肩などをたたき、無病息災の加持を行います。加持が終わると、鬼は寺を飛び出して地区の家々をまわり、もてなしを受けます。	災払鬼 
	鬼後咒	地区を回った鬼が講堂へ帰ってきます。鬼は暴れまわりますが、タイレンが押さえつけ、院主が鬼鎮めの餅をくわえさせるとしずまります。鬼は僧侶の衣に着替え、講堂で院主と長老の僧侶が「松明結儀頌」を唱え、鬼会が終了します。	

案内図



お問い合わせ

国東市伝統文化活性化実行委員会

事務局：国東市教育委員会 文化財課

〒873-0504 大分県国東市国東町安国寺 1639-2

国東市歴史体験学習館内

TEL：0978-72-2677

FAX：0978-72-2505

祭りの参拝についての注意

祭りには、学術的な調査や記録以外、一般には公開されていない部分もあります。個人宅や屋内等で行われる非公開の行事には、関係者のみで行われる儀式や住民のプライバシーに関する事柄も含まれています。祭りの伝統やしきたりを尊重し、迷惑をかけることのないようにしましょう。また、神社仏閣での公開行事では、マナーを守って写真撮影等を行い、祭りの関係者や他の見学者に迷惑をかけることのないようにしましょう。